

《地域連携・地域交流は日々の生活の中に》

～元気ステーション「あるっさ」との交流～

1.目的

元気ステーション「あるっさ」は保育園から徒歩5分ほどの場所にある高齢者施設。設立してすぐに散歩時のあいさつや声を掛け合うことがきっかけで交流が始まり、今ではお散歩コースとして日常の中で交流を続けている。様々な世代の人とのかかわりが減ってきている現在、家庭や保育園だけでは得られない様々な知識や経験をして高齢者との交流を楽しむ。

2.内容

「こんにちは」「おねがいします」などの挨拶をし、子どもたちの好きな体操をみせたりラジオ体操と一緒にして体を動かす。また、シャボン玉などであそぶ中で声を掛け合いかわりを持つ。



3.成果と課題

施設の利用者の方々は子どもたちの姿が見えると、すぐにテラスに出て笑顔で迎えてくれた。未満児クラスの子もたちは自分たちのあそび場に到着したかのように自由にあそび始める姿があり、安心できる環境となっている。以上児クラスの子もたちとの交流は少ないので、今後は少しずつお屋さんごっこなどの園の行事に参加してもらい交流する機会を作っていきたい。

～おじいちゃんとの畑づくり交流～

1.目的

食への興味・関心を高め、感謝の気持ちを持って食習慣の基礎を築くために年長児が畑やプランターで毎年野菜を育てている。今年度は年長児の祖父に畑づくりについて相談したところ、子どもたちに教えたり一緒に野菜を育てたりしていただけることになり、交流が始まった。野菜を育てるうえで大切な事を聞きながら、おじいちゃんとかかわりを楽しむ。

2.内容

「おねがいします」「ありがとうございました」などの挨拶を大切にしながら進める。その後種や苗の植え方やポイントを教えてもらい、実際に土に植える経験をする。一緒に水やりや草取りをしながら生長を見守っていく。また一緒に収穫をし、子どもたちの素直な反応や言葉を直接知らせていく。



3.成果と課題

はじめは保育士からの相談だったが畑づくりが始まると、子どもたちは野菜などを大切にする気持ちが育ただけでなく、子どもからおじいちゃんに積極的に声を掛ける様子が見られるようになった。話の内容も畑の事だけでなく、自分の事を伝えたりとかかわりの深まりを感じ、保育園で保育士や友だち以外の話ができる大人ができたことはよかったと思う。これから就学し、登下校などの際に地域の人に挨拶したり、時には困っている時に助けてもらったりできるような安心へとつながってほしい。